



サイの御教え

一九六八年ダシヤラー祭連続講話⑥
第三の力

この国の聖仙や賢人の教えはすべて、生き方、すなわち、日々の規律、家庭および社会での振る舞いや心構えや気持ちの持ち方、地域社会での責務、奉仕と思いやりの絆、といったものの中心核となるものです。それらはヴェーダーンタの実践面を強調しています。実のところ、このこと以外のヴェーダーンタはありません。ヴェーダーンタの目的とは、澄み切った状態の実体「内在の神」を体験することができるよう、心マインドを浄化し、理智を研ぎ澄ませ、感情を浄め、思考力を集中させることです。喜びと悲しみの打撃からの解放は、一なるもの、そして、不可分なるものである実体を顕現させることによってのみ生じます。

湖の水面に浮かぶ厚い苔を取り除けば、その下の水が明らかになります。鏡に付着した厚いほこりを取り払え

ば、自分の姿を見ることができません。鏡に映る自分の姿を見ても、それは不完全な真実ではありません。自分は鏡に映っている姿ではなく、映している本体である、というのが真実です。本体は、自分は本体だということとを知らなければなりません。「私」は「私」を自覚しなければなりません。それが真我セルフリアライゼーション 顕現マニフェストです。目は、数億光年も離れた星を見ることはできても、自分自身を見ることはできません！ 目は目を見なければなりません。そうすれば、目は、真我顕現を得た、すなわち、自分の真の姿を見た、と断言することができます。

私を知る資格を得なさい

あなたが自分を知らないかぎり、私（「パパ」）を知ることとはできません。頭上に飛行機が見えたら、あの機内にはパイロットがいるはずだ、ということをおあなたは知っています。しかし、パイロットを見なければ、必要な切符を買って飛行機に乗り、中に入らなければなりません。その資格を得なさい。見ることを勝ち取りなさい。

かつて、ヴィヴェーカーナーダは、「アヴィヴェー

キ（鋭い知性と識別力に欠ける人）には、私と私の使命は理解できない」と言いました。医大生は、生きている体のことを知ろうとして、死んでいる体を解剖します！ 世界を分析して学ぶことで得られる神についての知識は、およそこれに類することです。医者が患者を診察して治療し、患者がその処方を受けるとき、医者も患者も、両者の間には自分たちよりも有能で決定的な第三の力が存在するということを知りません。

見知らぬ土地の川岸に着いたら、どこが一番良い渡り場なのかを、足の不自由な人や目の不自由な人に尋ねたりはしません。あなたは足や目の不自由な人ではなく、何度もその川を渡ったことのある人の言うことを聞きます。見ることが出来る人は、学者です。歩くことができます。人は、経験を積んだ人です。両方の能力を持っている人が、良い案内人です。本で読んだことを得々としてやる人、相手が今いる段階を考慮せずに決まり文句を話して聞かせる人、お金を搾り取れそうな相手を探して歩き回っている人は、良い案内人ではありません。

アルジュナのようにな
捨離の精神を育みなさい

あなたの理智^{ブッディ}、すなわち生来持っているあなたの識別力を、捜し求め、調べ、体験し、信じるようあなたを促すのではなく、それは愚かなものだと思わせてしまうグルは、人類にとつての危険人物です。なぜなら、悟りを得るための唯一の道具が理智^{ブッディ}であるからです。グニャーナ（霊的知識）のみが、究極の真理のヴィジョンを授けることができます。ガーヤत्रीマントラが、内なる魂の光によって探求の精神を刺激して道を照らしてください、と願う祈りであるのは、そのためです。だからこそ、クリシュナはギーターの中で、「私は生きとし生けるもの〔知性ある者〕の知性である」と語ったのです。アルジュナはグダーケーシャ（怠惰と眠りに打ち勝った人）でした。アルジュナ（純粹・無垢の意）という名前自体が、彼が立派な徳の人であったことを示しています。アルジュナは偉大な勇士でした。だからこそ、アルジュナは主自身からギーターという生きる道を教えられたのです。アルジュナのようでありなさい。アルジュナが示

した捨離の精神を育みなさい。アルジュナがしたのと同じくらい注意深く、理的に、主に耳を傾けなさい。そうすれば、あなたもあなた自身の祈りによって、御者である神からギーターを授かることができます。

一九六八年九月二十九日

ダシャラー祭

ブラシャーンティニラムにて

Sathy Sai Speaks Vol.8 C38